

令和6年度 全国学力・学習状況調査の結果について

本年度実施しました全国学力・学習状況調査の結果を分析いたしましたところ、本校では以下のよう傾向が見られましたのでお知らせいたします。

1. 結果の概要

【国語】

正答率の高低傾向が全国平均の様相と似通っていました。昨年度まで課題が見られた「書くこと」では、全国や兵庫県の正答率より高くなっています。一方で「読むこと（物語）」の問題に課題が見られました。特に、日常的に読書に親しみ、読書が自分の考えを広げることに関与することに気付くことができるかどうかをみる問題で顕著に表れていました。後半の問題で無回答率が上がる傾向があり、読解や考えを整理し表現する力が影響していることが考えられます。

【算数】

本校では、二次元の表を読み取り、必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類することができるかどうかをみる短答式の問題において正答率が高く、グラフや表などの資料を比較し、適切に読み取って解答していました。正答率の高低傾向は全国平均の様相と似通っていましたが、数量関係を捉えて考える以下のような問題で課題が見られました。

- ・ 球の直径の長さと立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表すことができるかどうかをみる問題
- ・ 速さが一定であることに基に、道のりと時間の関係について考察できるかどうかをみる問題

2. 児童質問紙から見えること

質問の内容は、「基本的生活習慣」「挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感」「学習習慣、学習環境」「地域や社会に関わる活動の状況」「ICTを活用した学習状況」「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業に対する取組状況」「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」、学習に対する興味関心や授業の理解度「国語」「算数」「理科」「英語」の11観点63項目と、学力調査に関する解答状況について問う4項目でした。

回答結果の「当てはまる（している）」「どちらかといえば当てはまる（している）」を合わせたとき、全国平均を大きく超える項目が多くありました。一昨年、昨年同様、基本的生活の習慣化、自己肯定感が高い傾向にあること、学校生活（学習、先生、友達関係等）への期待が大きいことが表れています。また、多くの児童が、学校生活や学習内容は、「将来、社会に出たときに役立つ」と考えていることもわかりました。

昨今、SNS利用の増加による大人の読書離れが報道されています。今回、「読書が好き」と多くの児童が回答していますが、読書時間は年々減少しています。平日のスマートフォンなどの利用時間（SNS、動画視聴など）は、全国や兵庫県の平均よりやや低くなっています。利用時間についても「家庭の約束を守っている」という回答が高くなっています。また、放課後や週末の過ごし方は、「学童保育」や「スポーツに関する習いごと」という回答が高くなっているところに、本校の傾向

が表れていました。

3. 今後の取組について

本校では、学校教育目標に「こころ豊かに、自らの力で未来を切り拓く子の育成」を掲げ、教育活動を進めています。また、研究主題を『表現することを通して学びを深める子どもの育成～「学び合い」で考えを深め、「わかる学力」を育む授業づくり～』として、[※]「協同的探究学習」の理念に基づく授業改善に取り組んでいます。

授業では、考えを記述し、根拠や理由を説明する活動を積極的に取り入れると共に、進んで自分の考えをもち、友達の意見に興味・関心を向けながら、さらに自分の考えを深めようとする態度と「わかる学力」の向上に取り組んでいるところです。また、ICTを生かした学習活動も進めています。一人一人課題は異なりますが、各学年の実態に応じて「何をどのように読み、書くのか」意識して取り組むことができる授業づくりに一層努めます。また、「できる学力」の定着についても、各学年の実態や課題を見極めつつ、ICTを適切に活用することを含め、工夫して取り組んでまいります。

※協同的探究学習の理念には、学力は「できる学力」（知識及び技能）と「わかる学力」（思考力・判断力・表現力等）の両輪を成しているという考えがあります。本校ホームページにも、授業改善の工夫や研究について公開していますのでご覧ください。

子どもたちの学力の向上には、健康・体調管理の面、家庭における基本的な生活習慣や学習習慣の確立等、学校だけでは力の及ばないこともございます。学校と家庭が連携し、子どもたちの学力向上と健全な育成を図っていきましょう、引き続きご家庭でも、本に触れたり、ICTを適切に活用して学習に取り組んだりする時間をもつなど、「学びに向かう姿勢」を育てていただけるとありがたいです。

今後とも、ご協力をよろしくお願いいたします。